



優生保護法問題の全面解決をめざす

10.25全国集会に参加して…

10月25日(火)、日比谷野外大音楽堂に全国から1300人余りが集まりました。1948年から1996年まで存在した日本の法律だった優生保護法による犠牲者は、全国に数えきれないほどいますが、そのうち聞こえない人も全日本ろうあ連盟の調査で170人程いるそうです…

北は北海道札幌から、南は九州福岡、熊本まで、沢山の原告や被害者、弁護団代表などが、それぞれの状況を生の声で聴かせてくださいました。

信じ難いほど残酷な仕打ちを受けた方々は今、長引く裁判で、納得のいく謝罪と十分な補償を求めて国と戦い続けています。



道案内のお手伝い
千葉県聴覚障害者協会



駅を出てすぐに
馴染みの顔を発見！
たのしかった♡



千葉県からの参加者



横に5人ずつ並んでも、先頭が見えないほどの列だね

この集会は YouTube でも生配信され、1200以上のアクセスがあり、実質およそ2500名の参加となりました。集会後のデモ行進は全国からの参加者1300人が長蛇の列となって練り歩きました。北風の吹き付ける寒い曇り空でしたが、集まった人々の熱い思いが漂っていました。

サークル紹介



特集4号
流サ連
の巻〜♪

現在は市の出前講座や
市役所職員の手話講習会、

小学校の手話教室にも協力し、その企画段階から4つが一緒になり、時には意見がぶつかり合い白熱した議論になることもありますが、無事に活動を終えた時は皆で達成感を味わいます。10月末には3年ぶりに流山市民まつりが開催され、デフ協会と3サークルで、バザーと手作りポップコーン販売、手話コーラスのステージ発表で盛り上がりました。



聞こえない人の日常生活の

様子や、買い物や病院などで不便を感じていること、コロナによるマスク生活で困ることを伝えるため、デフ協会員とサークル員自らが出演したDVDを作りました。撮影した場面場面の編集作業は本当に大変でしたが、手話講習会や手話教室で放映すると、聞こえない人の生活や困っている事、配慮が必要な場面が分かり易いと好評です。このように皆で同じ目標に向かい、試行錯誤しながらも一步一步進んでいます。

「ろう者とかかわりを持つ。手話を覚えたいというその意気。たとえそれが稚拙であろうと、その気持ちが大切であり、本物である。そのように常に思っている私だから、まず手話サークルに入った。そして今もがんばりつつある。」皆さんご存知の「わが指のオーケストラ」著者である山本おさむさんのことばです。これからも私たちは皆で一緒に活動を続けていきます。

皆さんこんにちは！流山市は3つの手話サークルと、聴覚障害者団体の流山市デフ協会が、それぞれ独自の活動と共同の活動をしています。

一番歴史のあるサークル『さつきの会』(火午後1時～3時)は、昭和51年(1976年)4月に創立しました。当時は市の職員も関わり、ろう者の家を何度も訪問して活動しました。

『夢』(木10時～12時)は、平成11年(1999年)創立の手話芝居夢が平成15年手話サークル夢として再出発しました。福祉会館などで手話劇を披露しています。

『木の会』(木午後7時～8時50分)は平成5年(1993年)に創立しました。夜間の手話講習会の受講生が、講習の終了後に立ち上げました。

『流山市デフ協会』は、1973年12月に創立しました。デフ(deaf)とは、ろう者である。という強いメッセージ性を持った言葉で、聴覚障害者という名称の組織が多い中で、デフ協会というのは全国で流山が初めてです。



デフ協会と3サークルが、様々な目標に向かい共同で取り組んでいるのが流山の特徴であると思います。

手話言語条例については、デフ協会、サ連(3サークル)、ちば通研流山班、中難の会、歩む会で手話言語等検討委員会を立ち上げ、行政に対してどのように働き掛ければいいのか？全国の先進自治体の情報を収集、共有のための学習会も開きました。市議会の議員にも賛同を得て運動を展開しました。そして平成31年(2019年)4月に「流山市手話言語の普及の促進に関する条例」が施行されました。

第3回役員会予定(11月26日@千葉聴覚障害者センター)

県サ連ホームページ <http://www.kensaren.sakura.ne.jp/>

発行：千葉県手話サークル連絡協議会 責任者：外口晴久